

# 木協通信

第57号  
 発行年月日  
 平成30年3月31日  
 日田市大字東有田  
 字新山2776-6  
 日田木材協同組合  
 TEL24-2167  
 FAX24-3945

## ★日田木材協同組合百年を語る

日田郡木竹商共算組合規約書

第参章 営業販売所  
 第二十一条 営業所及出張所に左の役員を置く  
 支配人一名、書記三名、小使一名  
 但し業務の都合に依り増減する事を得  
 第二十二條 支配人は総会に於て選定し確実なる身元引受人を定め契約を締結す  
 第二十三條 支配人故障の為代務人を置き又は地区外へ出張旅費を要する時は会議所頭取へ申請すべし。  
 若し緊急事件にして頭取へ申請のいとまなき時は出張先より申請すべし。頭取は予め総代会の同意を要す  
 但し緊急事件にして頭取より総代会の同意を求むるいとまなき時は事後承諾を総代会に求むべし 次号へ続く

## ★新事務所竣工・落成祝賀会

東有田のウッドコンビナート内へ、引越しを行って丁度一か月、平成30年3月26日に新事務所の竣工式を開催いたしました。  
 午後2時より受付、建物を見て頂き、午後3時に神事を執り行いました。組合員、工事関係者、職員合わせて55名の参加を頂きました。  
 瀬戸理事長の挨拶では、三隈川沿いの横江館から日田駅前事務所、南友田の事務所からウッドコンビナートへ、4箇所目となる事務所移転の経緯を、冊子に纏めて説明を行いました。  
 その後、記念講演「これからの木材利用」と題し、東京大学名誉教授 安藤直人様の講演を頂きました。安藤先生は、木造建築推進セミナーの塾長も務めていただき、新事務所建設へのアドバイスも頂いています。  
 落成祝賀会では、小田副理事長がパワーポイントを使用し工事の概要を報告しました。



【神事風景】



【記念講演】

木レンジャーの登場は、来賓組合員共に楽しんでいただきました。



【工事の概要報告】



【感謝状の贈呈】

多くの来賓の方々にご臨席賜り、衆議院議員 衛藤征士郎様も駆けつけて頂き、お祝いの言葉を頂きました。

## ★モクコレ2018

東京のビックサイトで平成30年1月30日～31日にかけてモクコレが開催されました。  
 この催しは東京都が主催し、北海道から沖縄県まで全国の33都道府県が出店をしていました。大分県からは日田市を中心に日田家具が7件、トライ・ウッド、カネサダ横尾木工所と大分市から内装材のメーカーが出店していました。展示会と同時にステージでは木材に関する講演会も開催されました。一枚板から家の骨組み等いろいろな木材製品が展示されていました。木協が事務局をしている「顔の見える日田材の家づくり等推進協議会」から室内用の禅部屋と勉強部屋、遊具を展示しました。多くの人が足を止めて見学してくれました。2日間約2万人のお客様が来場され良いPRが出来ました。  
 現在作品は日田玖珠産業振興センターに展示していますので、ご覧下さい。

## ★木と暮らしたフェア

日田市主催のフェアが去る2月4日の日曜日に開催されました。  
 木協からは木青会員が木工教室を開催しました。また、東京で展示した禅部屋等を展示しました。当日は人も多く盛況でした。



た。組合員の方も出展されました。また、木レンジャーが自然や木材の良さをPRし、多くのお客様が拍手を送りました。

## ★フオローアツプセミナー

3月1日から2日にかけてセミナー等に参加しました。今年も阪和興業にお邪魔し、これからの木材の輸出状況等について、話を伺いました。  
 今年の8月から中国の木構造設計規範が改定され、日本のスギ・ヒノキ・カラマツが使用出来るようになる。しかし、中国の富裕層はカナダの2×4で戸建てを建てている。日本の戸建てができるのは、まだ先の話だろう。韓国ではプレカットの知名度が上がっており、月に1から2棟の実績がある。韓国には中国からヒノキ丸太が年間13万m<sup>3</sup>入っており、壁材として定着している。

アメリカでは、米スギのマーケットはエクステリア（フェンスやデッキなどの外装）であるが、SPF（ホウヒ・マツ・モミ）が値上がりをしており、隙間を突いてスギが入っている。寸法は製品で長さ2.4m 4.9m等である。  
 ベトナムは中国から加工拠点を東南アジアに移転した。中国の後はインドである。

続いて、日本木材輸出振興協会へ、当協会では、タイ、中国、韓国、インド、アメリカ等に木材マーケット調査を実施している。アメリカへの輸出は有望である。米スギの量が減少して、価格も高くなった。乾燥仕上げはラフが良いが、量をまとめられるかが課題である。インドは木材の使用量はそれほど多くなく、南洋材やアフリカ材を使用している。しかし、今後は有望なマーケットになるだろう。フィリピンは一条工務店が大半を占めている。愛媛県や奈良県がベトナムにスギやヒノキの売り込みをかけており、内装材として利用している。躯体でも売っているの、内容を工夫すれば木材は使える。

続いて、住友林業へ訪問し、木材需要拡大のため、非住宅に木を使う部署を作っている。土木建築に人が薄いので、対策を検討している。全国4カ所にバイオマス発電施設を持っている。燃料の足りない分はヤシガラを輸入した。昨年100万トン（北米の建物は2×4であるが、オーストラリアは違う。日本のノウハウを持っていく。現地の工務店を買収して、建築をする。木造に対するこだわりはある。その他、全国木材市場連盟の訪問や、地方創生フォーラム、木育デザインフォーラムに参加し、研修を受け充実した2日間を終えました。

## ★お知らせ

### ○平成30年度木づかい促進事業

本年度も4月2日より、受付いたします。